

プロジェクトおおわに事業協同組合（青森県大鰐町）

目指せ！日本の田舎町再生の お手本づくり！！

プロジェクトおおわに
事業協同組合

副理事長

そうま やすのり
相馬 康穂



1. 大鰐町の概要

大鰐町は、青森県津軽地方の南端に位置し、豊かな自然と緑に恵まれ、開湯800年以上の歴史を誇り、津軽の奥座敷として四季折々の美しさを満喫させてくれる町です。



県立自然公園「茶臼山公園」から望む大鰐町

全国一の生産量を誇るりんご王国青森県！その中でも大鰐高原りんごは、味・香り・色等品質の高さに定評があり、県の品評会等で幾度も受賞しています。りんごは寒暖の差が大きいほど色・味ともに優れた品に育ちますが、大鰐の気候風土は、りんご栽培に適しています。町内の観光農園では農作業を体験しながら、大鰐高原りんごを味わうことができます。

そして、なんといっても大鰐町には、温泉熱と温泉水のみを用いる温泉の町ならではの「大鰐温泉もやし」があります。

およそ350年以上前から栽培されてきた津軽伝統野菜のひとつで、津軽三代藩主・信義公が大鰐で湯治する際は必ず献上されたそうです。大鰐温泉もやしは、独特の芳香とシャキシャキとした歯触り、味の良さ、品質の高さで大変人気があります。



「大鰐温泉もやし」の収穫

また、大鰐温泉スキー場は全国大会が開催できる競技型スキー場として知られ、「大鰐の山で滑れば国内スキー場で滑れないスキー場はない」と言わしめるほど、難易度が高いコースも自慢の一つです。



初心者も楽しめるゲレンデも完備

2. 活動の背景・経緯

大鰐町は人口減少や少子高齢化が進み、基幹産業である観光や農業も停滞し、財政難が続く、「第2の夕張」と言われていました。将来に不安を抱えた大人達が、子供達に対し、「町を出て東京へ就職したほうが良い」と言い聞かせていました。

そこで、「このままでは町はダメになってしまう。」「地元の子供達に夢と希望を与える活動をしなければ」と、平成19年に「OH!!鰐 元気隊」という地域おこしグループを発起人16名会員130名で立ち上げ、大人だけでなく将来を担う子供達にもまちづくりに参加してもらうために「OH!!鰐 元気隊キッズ」活動をスタートさせました。

さらに、平成21年2月には、OH!!鰐元気隊発起人のうち9名が出資し「プロジェクトおおわに事業協同組合」というまちづくり会社を設立し、町の複合施設「大鰐町地域交流センター鰐 come」の指定管理者へ応募。応募に当たって、町から提示された指定管理料は0円で、周囲の人から「失敗したら町にいらなくなるぞ」と言われながらも、出資できる人たちがそれぞれの家族を説得し、300万円をかき集めま

した。それでも目標の運転資金には足りなかったため、鰐 come の温泉入浴前売券を2カ月間死に物狂いで売り歩き、汗まみれになりながら資金を800万円確保し、地域再生への第一歩をスタートさせました。



当組合の拠点「大鰐町地域交流センター鰐 come」

3. 活動の広がり

「OH!!鰐 元気隊」の活動への参加者が年々増加し、現在約150人。中でも「OH!!鰐 元気隊キッズ」は清掃活動や特産品PR活動、出張販売（東京）にも参加し、年々活動エリアが広範囲となってきています。



「OH!!鰐 元気隊キッズ」東京での活動

また、大鰐町地域交流センター鰐 come で農産物を販売する「鰐 come 産直の会」の立ち上げ当時は、反対者が相次いだが、現在では10軒を超える農家が参加し、町全体を巻き込み農業高齢者の収入増加という好循環の広がりを見せています。

さらに、町にはJRと弘南鉄道（私鉄）が乗り入れており、弘南鉄道とのコラボし、往復乗車券と入浴券等を併せた乗車割引券「さっパス」（津軽弁で「すっきりする」の意味。）を発売。沿線の誘客を行い、平成28年2月28日「さっパス」利用者が2万人を超え、弘南鉄道大鰐線の存続にも大きく貢献しています。



弘南鉄道とのコラボレーション商品「さっバス」

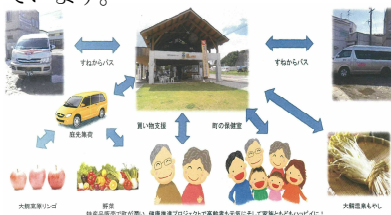
4. 継続性

「OH!!鰐 元気隊」、「OH!!鰐 元気隊キッズ」及び鰐c o m eの指定管理業務の他、「日本の田舎町再生のお手本づくり」講演活動、「大鰐温泉もやし」、「大鰐高原りんご」や「大鰐高原野菜」のブランド化も支援し、行政、農商工との分野横断的連携によるまちづくり等、様々な取組を展開しています。



「プロジェクトおおむに」による講演活動

近年の新しい活動として、野菜を栽培する一人暮らしの高齢者のために、電話1本で集荷に出向き、農産物を販売し、お金に換える事業を実施。そのまま高齢者を車に乗せて健康診断や温泉入浴に連れて行く等、農業×商業×福祉を合わせた新たな取り組みを実施する等、地域の時代に応じた、充実した事業展開をしています。



新たな事業展開

5. 地域資源の活用

大鰐町の伝承野菜である大鰐温泉もやしを先兵に、大鰐高原りんごと大鰐高原野菜のブランド化を図るため、首都圏の有名百貨店、青森県のアンテナショップ、JR上野駅・秋葉原駅構内にて、販路拡大とPR活動を続け、特に大鰐温泉もやしについては、生産量の7割は大鰐町へ残

し、直接来町して食べてもらうことにしており、県内外からの誘客促進に繋がっています。



首都圏で大鰐産野菜を売り込み

6. 創意工夫

大鰐町地域交流センター鰐c o m eの運営方針は、町が温泉地であり、競合他社の価格競争に参加せず「サービスの質で差別化を図る」とし、顧客満足度を高めるサービスを提供しています。従業員の研修には、超一流ホテルのコンシェルジュの方を講師として招聘する等毎月1回スキルアップを図っています。



スキルアップ研修

「大鰐温泉もやし」については、取材依頼や問い合わせが殺到しているが、伝統野菜である大鰐温泉もやしの価値や魅力を正しく伝え、評価して下さるマスコミや取引先を厳選することで、ブランド化が加速しています。



マスコミから取材依頼が大幅に増加

7. 成果

今春高校を卒業した「OH!!鰐 元気隊キッズ」の1期生は、「大鰐の為に頑張りたい!大鰐で働きたい!大鰐で農業をやる!」等、地元定着の意識が見られています。また「OH!!鰐 元気隊キッズ」に子供を参加させた保護者からは「大鰐町の良さを子供に気づかされた」という電話が相次ぐほど親世代の意識改革にもつながっています。また「鰐c o m e産

直の会」では、大鰐高原野菜の規格外農産物の売上が年間約3,000万円超となり、“孫に自動車を買ってあげた!”,“地元商工業者の売上が上がった!”と様々な話題が出ています。さらに企業とのコラボによる地元特産品を生かした商品開発を通して、町民の雇用創出にも貢献しています。このように、町民の郷土意識の向上、地域の魅力再発見、定住促進、地場産業の創出、雇用拡大等地域づくりの枠を越えた取組として注目されています。



OH!!鰐 元気隊による清掃活動

8. その他

来町者を増やす目的と、おもてなし向上を図るため、鰐c o m eでは朝礼時に「あっち向いてホイ!」、「人の良いところ褒める」、「挨拶訓練」、「ハイタッチ」等テンションを上げる独自の取り組みをしているが、それが話題を呼び、県内のみならず全国各地(海外)から視察団が多数来館するようになりました。



視察団と「ハイタッチ」朝礼

9. 課題と展望

これからは、地域資源である「大鰐温泉もやし」の伝承者育成、ブランド品保護、増産体制の確立を目指し、新たな作物の植え付けと商品開発を行うとともに、町に根差した食のPR活動による他地域との差別化、開湯800年の歴史を誇る温泉街の活性化を図っていきます。

そして町民が安心して住めるように衣・食・住・交・福にまたがる幅広い環境整備や、まちの景観づくり等広い視点に立ち、10年先を見据えた住民一体型の魅力ある地域づくり実現のために活動していきます。